＜主な検討事項　事務局作成メモ＞

１．日本語能力の測定方法と指導への生かし方

●外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント DLA の活用については、

・日本語能力の測定を実施するまでに研修等が必要。

・実際の実施にもある程度時間がかかる。

・複数人数でも実施できたり、短時間で実施できたりするような工夫が必要。

等の指摘がある中で、測定方法の普及に向けた具体的な方策として、どのようなことが考えられるか。

●日本語能力を測定し、その結果を指導へと生かすために、どのような手法や取組が考えられるか。また、課題は何か。

２．教材・手引き等の充実

●これまでに作成された教材・手引き等を踏まえ、また、民間等において各種教材が多数作成されている中で、教材・手引き等の充実に向けて、国として対応すべきことは何か。

●「かすたねっと」の機能を強化し、先進的な自治体等が作成している教材・文書を全国展開してはどうか。

例：「かすたねっと」による動画コンテンツの配信。「かすたねっと」の活用促進のため、アクセス数が多い教材・文書（トップ１０）を検索画面に表示　等

●障害のある児童生徒向けの音声教材等を、日本語指導が必要な外国人児童生徒等も使用できるように検討が進められているが、使用が可能となった場合、活用の促進や指導の充実のための取組として、どのようなことが考えられるか。

３．障害のある子供への対応

●義務教育諸学校等に通っている障害がある外国人児童生徒等はどの程度いるのか、「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」等を活用して把握する必要があるのではないか。また、調査を行う場合、留意する事項等はあるか。

●「外国人の受入れ・共生のための教育推進検討チーム報告」や「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策の充実について」に基づく取組をまずは、着実に推進していく必要があるのではないか。